

#### 1. 研究者になろうとしたきっかけ

私は血液臨床医として、多くの血液がん患者さんが抗がん剤治療に奏功せず命を落とす現状をみて参りました。このような経験を通じ、血液がん患者さんが臨床現場で直面する治療法の限界という根本的問題に対して、基礎研究を通じて現状を克服し得る新たな治療法の開発に挑戦し、患者さんに還元していくことが自らの使命であり、目指すべき医師・研究者像(physician scientist)であると考えようになりました。

#### 2. 助成研究の内容紹介

最近、白血病を始めとする血液がんを発症する前の段階(前がん状態)として、特にご高齢の方の一部にクローン性造血という段階がみられることが分かってきました。クローン性造血を有する方は、そうでない方に比べて統計学的に血液がんの発症率が高いことが知られています。一方、クローン性造血が炎症と深い関わりがあることも知られるようになってきました。以上から、本研究を通じて炎症がどのようなメカニズムでクローン性造血という血液がんの前がん状態を引き起こすのかを明らかにしたいと考えています。

#### 3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

研究の進展により、炎症がクローン性造血を引き起こす分子メカニズムを明らかにできれば、逆にクローン性造血の発生進展を抑える新しい治療薬の開発に繋がると考えています。クローン性造血の発生そのものを抑えることができれば、白血病を始めとする血液がんの発症そのものを未然に予防する新しい白血病予防法の確立に繋がると期待しています。

#### 4. 全国の RFL 関係者に一言

この度は多くの応募の中から、2018 年度 RFL プロジェクト未来研究助成に採択いただきまして、RFL・日本対がん協会関係者の皆様、そして RFL の活動に関係する全てのがん患者様・ご家族様・友人様・サポーター様に篤く御礼申し上げます。これまで培ってきた白血病・血液研究の知識と技術、そして血液臨床医としての情熱をもって研究に専念し、血液がん患者さんにとって希望となるような仕事ができるよう努力して参りたいと存じます。